

報告書送付のご挨拶（抜粋）

家庭系有害廃棄物の研究報告書を作成しました。

25年前、アメリカの家庭に配布されていた有害物質のパフレットを見て、なぜ日本ではないのかと不思議に思ったこと、そして自宅で使用した塗料や殺虫剤などをどうしたらよいか困っていたこと。この2つが研究の動機となっています。

2010年に卒論、修論で一年だけ研究を行い、廃棄物資源循環学会論文集22(4) (pp.231-242, 2011) に投稿いたしました。その後、回収システムの提案という具体的な目的をたて、環境省の科学研究費補助金をいただいて3年間研究を行いました。本研究の特徴は海外調査から試験回収実施、アンケート調査などほぼ網羅的に行い、具体的な回収方法の提案と問題点整理まで行ったことにあります。特に、試験回収は北海道旭川市全市を対象とする、今から考えると大変に無謀なものでした。予想に反して集まったことで、処理費増加は大きな不安となり、期間短縮を余儀なくされました。しかし、それだけ大きな需要があることの証明でもあり、研究の意義を確認することができました。

家庭で使用される有害物が、収集体系から抜け落ちていることは大きな問題です。適正なリスク管理のために、本報告書が役立つことを願っています。

平成26年5月1日

北海道大学大学院工学研究院
環境創生工学部門 廃棄物処分工学研究室
松藤敏彦